

出前講座などのご紹介

地域に伺ってカンムリウミスズメについて紹介したり、楽しみながら学べる展示物を作成・展示したり、地域の方と協力して様々なイベントを行なったりしてきました。その一部をご紹介します。ご興味のある方は保全プロジェクト推進室(TEL 03-5436-2634)にご相談ください。



展示

パネルやクイズ、さわれる展示などを使ってカンムリウミスズメの生態や海洋の環境問題、保護活動について紹介。地域の博物館などと連携したり、イベントなどへの出展もしています。



観察会・出前講座

地域の方と協力して、実際に海に出てカンムリウミスズメを観察します。講演会や学習会を合わせてや別個に行ない、生態や海洋の環境問題、保護活動について詳しく紹介しています。



コンサート

カンムリウミスズメをテーマとした曲を作曲して下さった世界的なオカリナ奏者の善久氏のご協力のもと、演奏と講演を合わせたコンサートを繁殖地がある地域などで開催しました。



日本野鳥の会
カンムリウミスズメ保護事業
2017年度 活動報告書

Annual Report 2017



センサーカメラで撮影

MOULTRIE 13°C 29.66inHg KANMURI-4 29 APR 2017 10:13 pm

日本野鳥の会は、1995年度から三宅島周辺に生息するカンムリウミスズメの調査を三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館を拠点に行なってきました。創立75周年を迎えた2009年度からは、伊豆諸島に活動範囲を広げ、残された繁殖地の保護、営巣地の増加や営巣環境の改善を目指して事業を進めています。

トピックス

- ◇ カンムリウミスズメにジオロケータを装着しました
- ◇ 下田市でカンムリウミスズメについて講演しました

ご支援のお願い

カンムリウミスズメの保護など当会の活動は皆さまからの会費やご寄付によって支えられています。気軽にご支援いただけるよう、さまざまな形でご寄付・ご支援の方法をご案内させていただいています。野鳥が暮らす豊かな自然を守るための活動に、ご協力をよろしくお願いいたします。

- ◆お申し込み・お問い合わせは会員室へ
TEL:03-5436-2630(10:00~17:00 土日祝定休)
FAX:03-5436-2636 メール:kifu@wbsj.org
<https://www.wbsj.org/join/>



プレゼント付き寄付
バードメイトの
ピンバッチ

最新情報はこちら

カンムリウミスズメの保護活動の最新情報や調査結果の速報、特徴や生態などをホームページやSNSでお知らせしています。日本野鳥の会ホームページからブログやTwitter、YouTube、Facebookページにリンクをしています。(当会の活動 - 自然保護 - 絶滅危惧種の保護 - カンムリウミスズメ <https://www.wbsj.org/nature/kisyou/sw/>)

カンムリウミスズメ保護事業 2017年度活動報告書

公益財団法人日本野鳥の会
保全プロジェクト推進室
東京都品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
TEL 03-5436-2634 FAX 03-5436-2635
2018年11月30日発行

2017年度、当事業はF氏カンムリ基金で実施いたしました。

カンムリウミスズメのひみつ

くらし

カンムリウミスズメは1年のほとんどを海で過ごします。ヒナが巣立って海に出ると、繁殖地の島から徐々に離れていきます。島から離れた後にどこに行くのかは現在調査が続けられています。目撃情報や宮崎県、福岡県、高知県の繁殖地でのジオロケータを使った調査では、太平洋側の日本沿岸を北上し、日本海側を南下するという結果がえられています(Yamaguchi et al. 2016)。しかし、個体によっては、南下する時に太平洋側を通るものもいるようで、カンムリウミスズメの移動経路やそこでの暮らしはまだ謎に包まれています。

子育て



繁殖が始まる時期は島によって少しずつ異なりますが、繁殖が始まる少し前に、巣をつくる島の近くに戻ってきます。営巣のために島に上陸し、岩の隙間や草の根元にできたくぼみなどで1から2個の卵を産みます。1ヶ月ほど卵を抱くと、黒い綿毛の様なヒナが孵ります。ヒナは孵化後1~2日で親と一緒に海へと旅立っていきます。最初に親からエサをもらうのは海に出てからです。

食べ物



カンムリウミスズメは海に潜ってエサを捕まえます。小魚や軟体動物、カニの幼生などの小動物やプランクトンを食べていたという報告がありますが、まだ詳しくはわかっていません。



天敵



繁殖地の島では、卵やヒナ、時には成鳥も、カラスやネズミ、ヘビなどに捕食される危険があります。



数が減った理由

○繁殖地に釣り人などが放置したゴミや撒き餌にカラス類が誘引されたり、人の移動と共にネズミ類が入り込んだりして捕食者になっています。卵やヒナだけでなく成鳥も襲われることがあります。

- 釣りや海洋レジャーの拡大により繁殖地に人が立ち入るようになり、卵やヒナが無造作に踏まれたり、攪乱により親鳥が巣を放棄したりといった影響が懸念されています。
- 刺し網漁による混獲や油汚染による死亡例が報告されています。



羽毛

冷たい海水が肌に触れないように、羽毛がとても密に生えています。卵を抱くときには抱卵斑という羽が抜ける場所ができますが、見つけるのが難しいほど周りに羽が密に生えています。

脚

水上や水中で泳ぐときに、効率よく水をかけるように足が体の後ろの方についています。そのため、陸上は得意ではなく、腹這いや前傾姿勢で移動します。



水かき

1年のほとんどを海上で過ごし、繁殖地を離れると遠くは北海道や沿海州の沿岸まで移動します。そのほとんどを泳いで移動していると考えられています。特に水上で推進力をえる際に活躍するのがこの水かきです。

冠羽

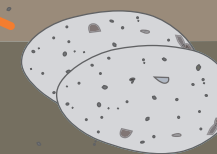
繁殖期になると前頭部から細い羽が伸びて名前の由来となっている冠羽ができます。非繁殖羽では、冠羽は抜けてなくなります。



おんぼせじま
繁殖地の1つ神津島の恩馳島

卵

1シーズンに1個か2個の卵を産みます。卵は体の大きさに対してとても大きく、卵重は体重の約22%にもなります。他の鳥と比べると(ニワトリの卵重は体重の3%程度、ウズラでも8%程度)、非常に大きな卵を産むことが分かります。



翼

水中では、ペンギンのように翼をはばたかせて泳ぎます。翼と足をうまく使って泳いでいるようです。細くて短い翼ですが、ペンギンと違って空を飛ぶこともできます。



カンムリウミスズメ

チドリ目ウミスズメ科
 体長:約24cm
 体重:約160g
 分布:日本の近海にだけ分布
 一腹卵数:2個(重さ30~35gくらい)
 推定総個体数:5,000から10,000羽
 保護指定:絶滅危惧II類(VU)(環境省)
 Vulnerable(VU)(IUCN)
 国指定天然記念物



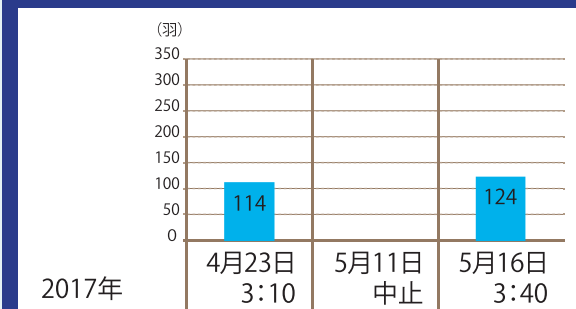
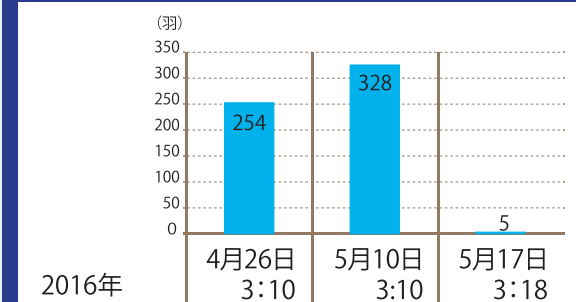
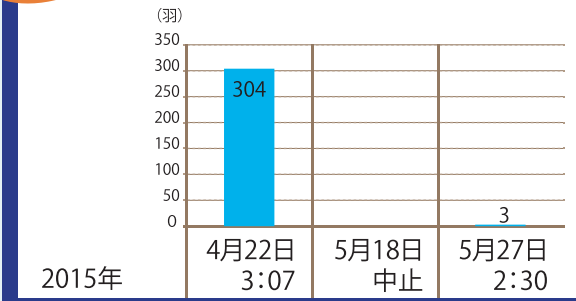
繁殖地における個体数調査

繁殖地の島ごとに、どれくらいのカンムリウミスズメが利用しているかを知るために、繁殖期である4月から5月にかけて洋上に浮かぶカンムリウミスズメの個体数を数えています。

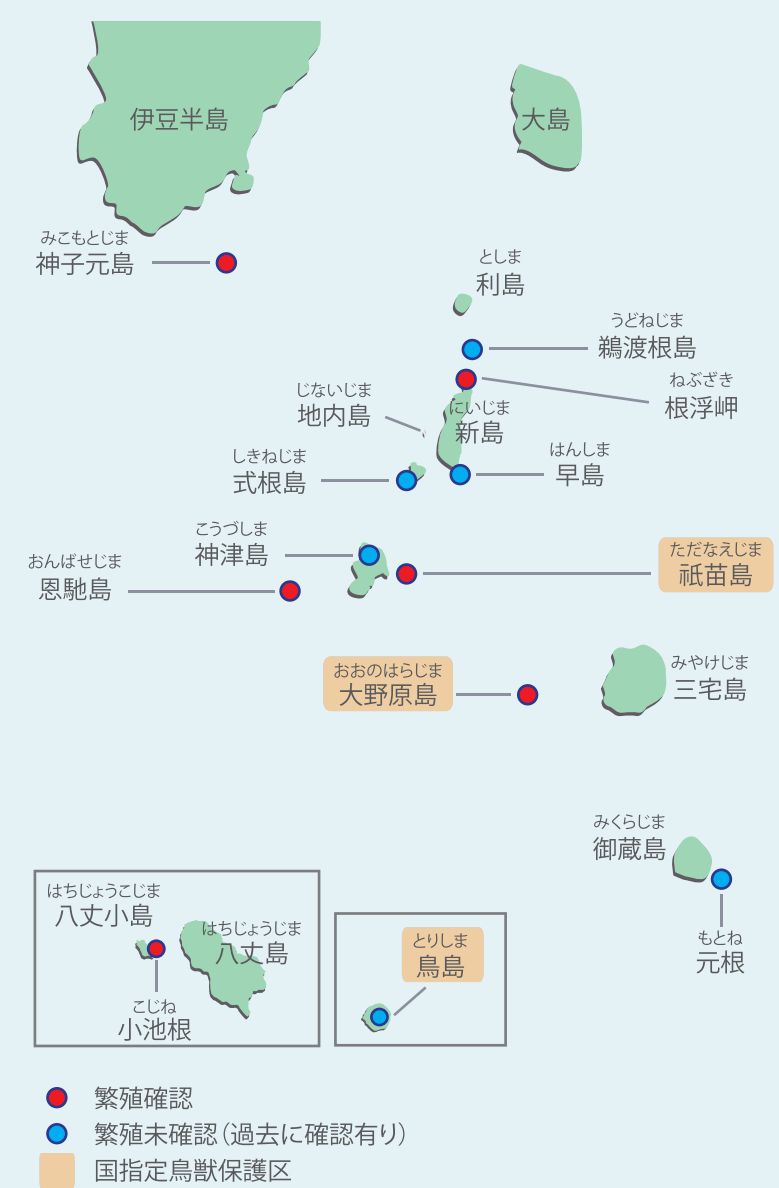
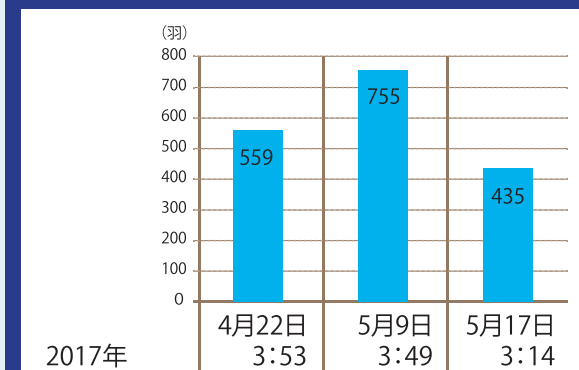
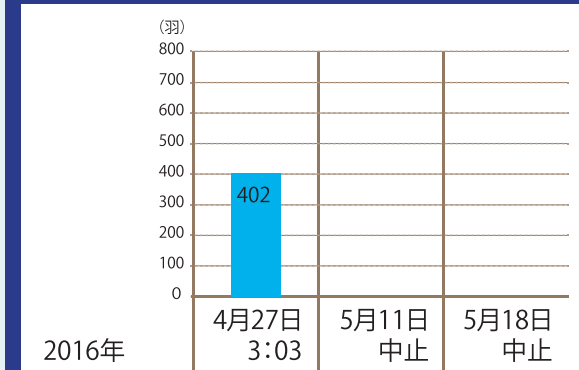
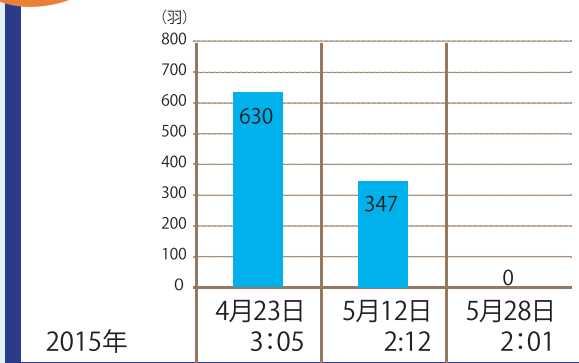
2015年から3年間は地内島と恩馳島で毎年3回ずつ調査を行ないました。まだ暗い、日の出の2~3時間前から島の周囲をゆっくりと船で3周し、見られた数を記録しました。その結果、海況により1度しか調査できない年もありましたが、カンムリウミスズメが多く記録されるのは、どちらの島も5月の第2週までで、年によって少し前後しますが、第3週を過ぎると見られる数は減り、下旬にはほとんど見られなくなることが分かりました。また、1回の調査で3周することで、空がうっすらと明るくなっていく日の出時間に近い3周目になると、カンムリウミスズメの個体数が大きく減少することもわかりました。

以前行っていた日中の調査では、エサを求めてカンムリウミスズメが海に分散してしまい、恩馳島で55羽、地内島で1羽(2013年)しか見つけられず、個体数を把握することは困難でした。しかし、地元漁師さんからの情報と繁殖地でのセンサーカメラによる調査の結果から早朝に変更したところ、より多くの個体を見つえられるようになり、また時期を変えて調査を繰り返すことで個体数の変化についてもある程度の傾向を知ることができました。

地内島 早朝洋上調査の各調査日の最多個体数



恩馳島 早朝洋上調査の各調査日の最多個体数



大学と協力してカンムリウミスズメの謎に迫る!

当会は、カンムリウミスズメの保護を進めることを目的に、その生態を明らかにするための調査を行なっています。そうした中、以前、当会のサンクチュアリで共同調査を行っていた帝京科学大学の森貴久先生から、卒業論文でカンムリウミスズメの調査を希望している学生がいるので、一緒に調査できないかというご提案をいただきました。カンムリウミスズメの繁殖地はアクセスしにくい所が多いのですが、神子元島は繁殖個体数は少ないものの、人工島の設置などの活動を行なっており、また、比較的安全に上陸できることから、この場所で調査を行なうことになりました。

学生の方のテーマは、①カンムリウミスズメの繁殖地周辺の利用海域と利用深度の解明、②カンムリウミスズメと捕食者であるカラス類の飛来の関係の2つでした。残念ながら①はデータをとることができませんでしたが、②については大学で設置したセンサーカメラのデータを中心に、当会で収集したデータも用いて解析を行なえました。

その結果、カンムリウミスズメの巣の出入り時間とその傾向が明らかになり、日の出の時間に強く反応することが示唆されました。また、カラス類がカンムリウミスズメの繁殖に与える影響について、カラス類がカンムリウミスズメの繁殖や孵化のタイミングを計るのかのごとく出現することなどが示され卒業論文にまとめられました。今後も帝京科学大学を始め様々な方と協力して調査などの活動を行なう予定です。



ジオロケータを装着しました!

私たちが調査を行なっている伊豆諸島周辺では、カンムリウミスズメは1月末ごろから徐々に見られるようになり、巣立ちが終わる5月中旬以降にはほとんど見られなくなります。繁殖地を離れる約8か月の間どこにいるのかを知ることは、カンムリウミスズメを保護していく上で重要な情報です。日本野鳥の会では、ウェブを使って多くの皆さんから目撃情報を募集、その結果(Annual Report2016に掲載)も参考に、東北や北海道東部から漁船を出して洋上調査を行ないました。調査は早朝から午後まで数時間実施しましたが、海面にどれだけ目を凝らしても1羽も見つからない場合もあるなど、気力、体力的にもなかなか難しいものでした。

そこで、周囲の明るさを記録し、日の長さや南中時刻から緯度経度を推測するジオロケータという調査用機器を使うことにしました。ジオロケータは重さ約1.5gと軽く小さいもので、カンムリウミスズメに装着しても大きな負担にはならないと考えられます。調査は2017年春にカンムリウミスズメを捕獲、機器を装着し、彼らの旅が終わって伊豆諸島周辺に戻ってくる翌年に再度捕獲してジオロケータを回収、データを取得する計画です。

4月に祇苗島で9個体、5月に神子元島で2個体にジオロケータを装着し、長旅を終えて無事に帰ってくるよう祈りながら放しました。来年発行のAnnual Report2018で、この調査の結果をお知らせできることを楽しみにしています。



人工巢の改良と設置

2017年もU字溝を用いた人工巢2巣が使われ、3羽のヒナが巣立ったようです。新型人工巢にも砂をかき分けたような跡があり、今後へとつながるヒントがえられました。来シーズンのために改良した人工巢は、2018年2月に設置しました。

2017年1月7日 人工巢を設置

日の出とともに作業をはじめ、コンテナボックスを用いた新型人工巢を大小合わせて16個、U字溝を用いた人工巢を14個設置。これまで利用されなかった人工巢には、新たにカラスの捕食防止対策を行ないました。人工巢の周囲には利用確認のためのセンサーカメラを設置しました。



2017年2月22日、4月26-28日 利用確認

センサーカメラのデータ回収を各調査で行ないました。4月の調査では、人工巢を1つずつファイバースコープで覗き、カンムリウミスズメの利用の有無を確認しました。目視では、ヒナの確認はできませんでしたが、2つの人工巢からカンムリウミスズメのヒナの声が聞こえ、無事に孵化したことが確認できました。

2017年6月12日 利用確認

カンムリウミスズメが海に戻った頃、人工巢をあけて中を確認しました。今年は昨シーズン利用された人工巢で再び2ペアが子育てをしました。2つの巣を合わせて、孵化卵3卵と未孵化卵1卵が残されていました。新型人工巢は利用されませんでした。改良に向け新しいヒントがえられました。



2017年度の主な活動

- 洋上調査 地内島 4月23日、5月16日
恩馳島 4月22日、5月9日、5月17日
大野原島 3月26日
- 上陸調査 地内島 8月29、30日
- 移動経路調査 神子元島 4月26-28日
祇苗島 4月21-22日
- 人工巢の利用確認 4月26-28日、6月12日
- 捕食者確認 11月10日
- 人工巢の設置 2月4日
- Annual Report 2016発行 9月27日
- 下田市教育委員会連続講座 2月3日
- 三宅中学校学習会・観察会 3月14日

普及・教育活動

三宅島中学校との新たな取り組み

中学校との連携

繁殖地の大野原島(三本岳)がある三宅島の子供たちにカンムリウミスズメを知ってもらうため、2013年からアカコッコ館の主催行事として三宅中学校3年生を対象とした勉強会(講義、観察会)を行なってきました。しかし、週末の2日間を費やさなければならないことやアカコッコ館までの交通の便が悪いことなどから、参加者はあまり多くありませんでした。こうした状況を打開するため、数年をかけて中学校に働きかけ、2017年度から授業に取り入れられることになりました。

三宅島の子供たちとカンムリウミスズメ

2018年3月14日、学校で全校生徒を対象に講義を行ないました。ほとんどの生徒たちがカンムリウミスズメを見たことはなく、名前を知っていても生態などは知らない状況でした。そこで、海鳥全般の基礎知識から始まり、多くの種が絶滅の危機に瀕している事、三宅島での1950年代から続くカンムリウミスズメの保護の歴史について映像などを使って紹介しました。生徒からは、普段海のゴミを回収するなどの活動をしているが、ほかに自分で行なえる保護活動にはどんなことがあるかなどの質問が出され、関心の高さを伺うことができました。別の日に予定していた観察会は残念ながら海況不良で予備日を含め中止となってしまいましたが、三宅島になじみの深いカンムリウミスズメについて改めて考えるよい機会になりました。



下田市でカンムリウミスズメを紹介

地域の宝 カンムリウミスズメ

2月3日、人工巢を設置している神子元島がある静岡県下田市で、下田市教育委員会開催の連続講座「南豆の歴史を後世に」の最終回に、天然記念物に指定される地域の宝としてカンムリウミスズメのお話をする機会をいただきました。神子元島は、下田港の南へ約11km沖にある無人島で、下田市唯一のカンムリウミスズメの繁殖地です。この辺りは時期によっては、少数のカンムリウミスズメが陸地から見えるほど近くに飛来することがありますが、基本的には船に乗って沖に出ないとその姿を見ることはできません。そのため講演の参加者でも見たことがある方は数名でした。

カンムリウミスズメの保護活動の今

講演会では、海の問題から、海洋生態系の一員であるカンムリウミスズメの生態や人工巢の設置活動、当会の希少種保護についてなど多岐にわたる話をしました。会場からは、分布や生態、取り巻く問題などについての質問をいただきました。神子元島をはじめ伊豆諸島では、人工巢の開発やデータロガーの装着などカンムリウミスズメの保護のための新しい取り組みを行なっています。今後もこうした結果を伝える活動を様々な機会に続けていきたいと考えています。

